第１８２号　令和５年４月１日

ミニデイ【おとこの台所 桜新町だより】

発行責任者　桜新町広報：柏木君夫、岡元正史

◉ 春の行楽「花見弁当」。

江戸落語の演目に「長屋の花見」という滑稽噺がある。
しみったれな大家が言い出しっぺで、長屋の店子連中が、桜の花見と洒落込む。
「今日は大家の儂（わし）のおごりだ。皆、どんどんとやっておくれよ」
さて、毛せん代わりに藁ムシロ。玉子焼きは沢庵、蒲鉾は大根。お酒もお茶け。
下げは、店子が皮肉っぽく「大家さん。こりゃ縁起が良いや。酒柱が立ってら」

◉「幕の内弁当」「松花堂弁当」から、今風の「コンビニ弁当」まで。

縄文時代の野っ原を走る狩人は、飯を食った。弥生時代の稲作人も、飯は食った。
携帯食である弁当（どんな？）を持ち歩く姿が、ほのぼのと目に浮かぶ。
●幕の内弁当。 江戸時代の中期に生まれた、歌舞伎の幕間に食べる俵形のおにぎりとおかずを詰め合わせた折詰の弁当。
●松花堂弁当。

松花堂昭乗は、江戸の初期の書画家で「松花堂流」の祖。昭乗は、縁が高く中に十字形の仕切りがある蓋付きの箱を、常々絵具箱や煙草盆として使っていた。
下って百年近く前。京都の料亭が松花堂の箱の中に、小皿や小鉢を盛り付けて出来た弁当と言われる。四つの仕切りが一般だが、六つや、中には九つの豪華な弁当箱もある。
下って海苔弁当に日の丸弁当。スーパーやコンビニの弁当まで。美味しくゴチに。

◉ 駅弁。

♪汽笛一斉、新橋を～♪の陸（おか）蒸気から、去年150年を迎えた日本の鉄道。
当時は、新橋（汐留）と横浜（桜木町）の乗車時間１時間あまり、駅弁などない。
●下って各地に＜駅弁発祥の駅＞が諸説あり…。
一般に語られるのが、宇都宮線の開通に合わせて、宇都宮駅の前の店が売り出した＜おにぎりと沢庵を竹の皮に包んだ弁当＞が始まりとも。さて…。
●＜駅弁フェア＞の定番。
函館の小さな森駅の＜イカ飯＞。新幹線開通に伴い廃駅の渋川駅＜峠の釜飯＞は、道の駅や高速道路のサービスエリアなどで、しぶとく生き延びている（祝）。

◉ 空弁（そらべん）。

2000年代に入って定着した呼び名で、各地の空港で売られている弁当のこと。
●石狩鮨（千歳）、牛タン弁当（仙台）、カツサンド（羽田）…など、数々。

３月の定例会	参加者は２日（木）１４名＋ゲスト２名、１０日（金）１４名でした。
４月の定例会	６日（木）兼 お花見。１４日（金）です。